

平成23年度

紀要



仙台市中学校長会

目 次

巻頭言	・ ・ ・ ・ 仙台市中学校長会長 高 橋 泰	1
-----	-------------------------	---

平成23年度仙台市中学校長会活動方針	・ ・ ・ ・ ・	2
--------------------	-----------	---

1 各部の活動概要

(1) 総 務 部	・ ・ ・ ・ ・	3
-----------	-----------	---

(2) 研 究 部	・ ・ ・ ・ ・	4
-----------	-----------	---

(3) 教育課題部	・ ・ ・ ・ ・	5
-----------	-----------	---

(4) 研 修 部	・ ・ ・ ・ ・	6
-----------	-----------	---

(5) 人 事 部	・ ・ ・ ・ ・	7
-----------	-----------	---

(6) 情 報 部	・ ・ ・ ・ ・	8
-----------	-----------	---

(7) 行 財 政 部	・ ・ ・ ・ ・	9
-------------	-----------	---

(8) 生徒指導部	・ ・ ・ ・ ・	10
-----------	-----------	----

2 研究調査等報告

(1) 研 究 部「教師力の向上を目指す校内研修の在り方」	・ ・ ・ ・ ・	11～20
-------------------------------	-----------	-------

(2) 教育課題部「東日本大震災への対応・記録粹」	・ ・ ・ ・ ・	21～24
---------------------------	-----------	-------



<巻頭言>

東日本大震災からの創造ある復興

仙台市中学校長会長 高橋 泰

1 はじめに

H23.3.11 に発生した東日本大震災は、岩手・福島・宮城の沿岸各地の大津波による甚大な被害と比較して、それほど大きくはなかったかもしれないが、私たち仙台市内の中学校にもそれなりの被害をもたらした。

この1年間は、例年の中学校長会の業務とは別に、各会員がそれぞれに正常な学校運営の再開を目指し、懸命に対応してきた1年間だったと言えるだろう。

2 復興への取組

復興への取組の前に、現状把握の課題があった。3月中旬以降までは、通信手段等の不能状態に併せて自校の避難所運営等に精力を傾注せざるを得ないこともあって、情報不足の状況が続き、市内全体はもとより学区内の状況もよく把握できない日々が続いた。唯一、3.15 に開催された臨時合同校長会において、市教委から、「被災校の概要、臨時休校、卒業式、修了式等の日程、高校入試への対応、児童生徒の安否確認、人事異動、災害対策用勤務実績の件等」についての情報が提供され、様々な指示等が出されたことは、非常に有効かつ貴重だったと感謝している。

本校長会としては、4.7 に臨時校長会を実施した。そこでは、大震災に関する緊急アンケート（「①施設の被害状況と授業再開の状況等、②修学旅行・野外活動への対応、③市教委・中体連や中教研等への要望事項等」）を実施し、各会員からの情報や意見を集約した

その後、本校長会としては、「情報の共有」を重視しながら、『東日本大震災からの創造ある復興』を合い言葉にして、正常な学校運営＝従来どおりの生徒活動の再開を目指して様々な取組を進めてきた。

そして、本校長会独自の取組のほかに、仙台市PTA協議会との共催で、「大震災…これまでと…これから」というテーマで校長・P会長教育研修会を実施したり、市教委幹部と小・中学校長会役員による「震災後の施策に対する意見交換会」を実施したりするなどの取組を行ってきた。

さらに、県・市中学校長会研究協議会本吉大会では、宮城県教委・仙台市教委の絶大なご協力を得て、被災地の一つである志津川において、「東日本大震災からの学びの共有」というテーマを特設し、研究協議等を行ったところである。

さらには、全日中学校長会、各都道府県中学校長会、政令指定都市中学校長会やその他の団体各位から多大な義援金等を頂戴し、6月には、市内各中学校から第一次申請募集を行い、260万円余の配分を終わったところだが、12月にも、第二次申請募集を行ったところである。

3 終わりに

私たちは、今後、この大震災からの復興や新たな防災教育の計画・実践については、国が改正した『施設整備基本方針』や仙台市が11月下旬に決定した『仙台市震災復興計画』等の範囲内で動くことにはなるが、私たちなりに、今回の記録と課題等を洗い出して『（仮題）東日本大震災に関する記録集』をまとめ、市教委をはじめ関係機関、政令指定都市をはじめ、全国の校長先生方等に発信していく使命があると考え、その準備を進めて、年度内の発刊を予定しているところである。

今後、数十年にわたって語り継がれるであろう「23.3.11からの復興に立ち会った校長」として、この1年間の各会員のご労苦を讃え合うとともに、本校長会への積極的な参加に感謝し、巻頭の挨拶としたい。

平成23年度 仙台市中学校長会活動方針

今日、我が国では、国際化、高度情報化などによる諸課題に対応するとともに、真に豊かで活力ある社会の実現を目指して、大規模な改革が進められている。

また、教育基本法の改正及びこれを受けた教育関連法規の制定に加え、新学習指導要領が一部先行実施され、さらには、仙台市教育振興基本計画の策定が進められるなど、今までにない重要な局面が続いている。

さらに、東日本大震災からの創造ある復興が求められている。

この時に当たり、わたしたちは中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し、全日中教育ビジョン『学校からの教育改革』の理念を踏まえるとともに、仙台市教育振興基本計画に基づく学校づくりを推進しなければならない。

わたしたちは、校長としての職責を自覚し、次の重点項目に基づき、本市中学校教育の一層の充実・振興に努める。

- 1 仙台市中学校長会の機能を一層充実させ、活動の活性化に努める。
 - (1) 教育改革や経営能力向上のための研修・協議の充実
 - (2) 宮城県中学校、宮城県・仙台市小学校、公私立高等学校の校長会との連携強化
 - (3) 各部における諸活動の充実と関係諸機関等との連携強化
 - (4) 市民・保護者への活動内容等の積極的な情報公開の推進
- 2 創意ある教育課程を編成・実施し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。
 - (1) 新学習指導要領移行措置並びに「仙台市教育振興基本計画」に基づいた、子どもの可能性を広げる学校教育の推進
 - (2) 基礎的な知識・技能の習得及び学習意欲と応用力の向上を図る指導と評価の改善
 - (3) 問題解決能力、創造力を育てる指導の工夫
 - (4) 豊かな心と健やかな体をはぐくむ指導の工夫・改善
- 3 当面する教育課題の解決に努める。
 - (1) 豊かな心の育成を中核とする生徒指導の推進
 - (2) いじめの早期発見といじめを許さない学校体制の確立
 - (3) 自分づくり教育の充実
 - (4) 安全・安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域社会との連携強化
 - (5) 防災意識の高揚と防災体制の一層の充実
 - (6) 学校改善につながる協働型学校評価の推進
 - (7) 教職員の適正な評価を通しての資質向上と教育実践に基づいた現職教育の充実
 - (8) 特別支援教育の充実
 - (9) 公立高等学校新入試制度への対応
- 4 多様な教育活動を推進するため、教育条件の整備・充実を期する。
 - (1) 主幹教諭の配置拡大と教職員定数の改善
 - (2) 免許外教科担任の解消と非常勤講師制度の拡充
 - (3) 教職員の人材育成及び特色ある学校づくりのための人事異動システムづくり
 - (4) 施設・設備の充実と教材備品の整備
- 5 教職員の職責に見合う待遇改善の実現を期する。
 - (1) 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持
 - (2) 諸手当を含む給与体系の改善

1 各部の活動概要

(1) 総務部

(2) 研究部

(3) 教育課題部

(4) 研修部

(5) 人事部

(6) 情報部

(7) 行財政部

(8) 生徒指導部

総 務 部

部長 沼 田 茂 雄

1 活動目標

仙台市中学校長会の活動方針や宣言・決議を踏まえ、様々な要望や提言の取りまとめを行い、活動計画全体及び各部間の連絡調整を図りながら、会の能率的かつ円滑な運営に努める。

2 活動内容

- (1) 各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ、その窓口となる。
 - ① 仙台市教育委員会等への提言書の作成及び渉外に関する事項
 - ② その他の事項
- (2) 年度の活動目標・行事予定・事業計画を立案する。
- (3) 例会や各種会議等の準備や計画・運営を行う。
- (4) 各部会間等の綿密な連絡調整を図る。
- (5) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い、実施する。
- (6) 市中学校長会総会要項を編集し発行する。
- (7) 中高連絡会に関する事項
- (8) その他

3 活動の概要

- (1) 第1回総務部会〔教育センター〕
4月14日（木）
部員顔合わせ、副部長の選出、活動目標、活動計画、係分担等についての検討等
- (2) 第2回総務部会〔H 白萩〕
4月25日（月）
仙台市中学校長会総会の準備・打合せ等
- (3) 「学校教育充実に関する小中合同研修会」
7月15日（金）提言書素案の検討
- (4) 「小中学校教育の充実に関する研修会」
8月2日（火）〔教育センター〕
中学校主担当（小・中学校長会役員出席）
- (5) 市教委への提言書提出〔市役所本庁舎〕
8月30日（火）中学校主担当
中学校長会話題提供「東日本大震災における市内中学校の課題について」
- (6) 第3回総務部会
8月31日（水）

歓迎会の準備・打合せ、東日本大震災の義援金等について

- (7) 中高（公）連絡会〔H 白萩〕
9月8日（木）
高等学校当番
- (8) 仙台市中学校長会歓迎会〔H 白萩〕
9月8日（木）
- (9) 全国中学校長会埼玉大会
〔大宮ソニックシティ他〕
10月27日（木）～28日（金）
交通、宿泊等連絡調整（10名参加）
- (10) 県・市中学校長会研究協議会本吉大会
11月4日（金）
連絡調整（原則全員参加）
- (11) 中高（私）連絡会〔仙台ガーデンパレス〕
11月7日（月）
高等学校当番
- (12) 大都市中学校長会福岡大会〔福岡市〕
11月10日（木）～11日（金）
交通、宿泊等連絡調整（8名参加）
- (13) 第4回総務部会〔中央市民センター〕
11月29日（火）
懇親会の準備・打合せ
- (14) 中学校長会懇親会〔H 白萩〕
12月9日（金）
- (15) 中学校長会送別会〔H 白萩〕
1月13日（金）
- (16) 県・市連絡協議会〔H 白萩〕
 - ① 5月20日（金）
 - ② 9月30日（金）
 - ③ 1月20日（金）
- (17) 第5回総務部会〔H 白萩〕
3月2日（金）
年間の反省と次年度の計画等
- (18) その他（各例会時における準備等）

<総務部員>

部 長	沼田 茂雄	（宮 城 野 中）
副 部 長	佐藤 正道	（広 瀬 中）
事務局長	佐藤 輝子	（五 城 中）
部 員	相場 啓司	（上 杉 山 中）
部 員	山田 恵嗣	（長 町 中）
部 員	藤井嘉津雄	（中 山 中）
部 員	工藤 洋	（中 野 中）
部 員	大曾根真紀子	（南光台東中）

研 究 部

部長 板 橋 誠 二

1 活動目標

「教師力の向上を目指した研修の充実」のテーマのもと、各校の実情に応じた研修計画の在り方やミドルリーダー育成のための効果的な方策等を探る。併せて平成23年度第31回宮城県・仙台市中学校長会研究協議会本吉大会（以下「県大会」）においてその成果を発表し、広く県内へ情報提供を行う。

2 活動内容

- (1) 各校の年間研修計画を収集・分析し、その情報を結果を例会で提供する。
- (2) 教育センターの主幹をお迎えして、仙台市におけるミドルリーダー育成についての研修を行う。
- (3) 研修部と共同で、学校規模に応じた各校のミドルリーダー育成のための取組についての情報交換会を行い、より効果的な育成の在り方を探る。
- (4) 本年度の取組をまとめ、県大会において発表する。
- (5) 県大会において、東日本大震災時の学校の対応についての話題提供を行う。

3 活動概要

- (1) 4月25日(月) 第1回部会
 - ・副部長の選出
 - ・活動目標、活動内容の確認
 - ・校内研修計画アンケート
(内容、収集・分析、広報)
- (2) 5月30日(月) 第2回部会
 - ・校内研修計画アンケートの分析
 - ・ミドルリーダー育成についての研修
 - ・研修部との連携事業
 - ・県大会に向けての活動計画
- (3) 7月14日(木) 第3回部会
※研修部との合同部会

- ・8月例会時のミドルリーダー育成の情報交換会について（役割分担等）
- ・県大会について
(県大会の内容変更と役割分担)

- (4) 8月19日(金) 第1回誌上発表検討会
 - ・県大会の誌上発表原稿の検討
- (5) 9月8日(木) 第4回部会
 - ・アンケート結果の集計
 - ・県大会について
(分科会、誌上発表原稿)
- (6) 9月29日(木) 第2回誌上発表検討会
 - ・県大会の誌上発表原稿の検討
- (7) 10月3日(月) 第5回部会
 - ・8月例会時の情報交換会の記録について
 - ・県大会についての最終確認
(話題提供・誌上発表の原稿の検討)
- (8) 11月4日(金)
県大会において話題提供・誌上発表
 - 話題提供
 - ・テーマ 避難所としての立ち上げ
 - ・発表者 小川 彰 (将監中)
 - 誌上発表
 - ・教師力の向上を目指した研修の充実
＜教師力向上を目指す校内研修の在り方＞
- (9) 12月9日(金) 第6回部会
 - ・紀要の原稿についての検討と確認

<研究部員>

部 長	板橋 誠二	(加 茂 中)
副部長	末永 精悦	(鶴 谷 中)
部 員	三浦 亮	(郡 山 中)
部 員	山本 勝	(蒲 町 中)
部 員	阿部 誠	(大 沢 中)
部 員	志村 聖	(秋 保 中)
部 員	小川 彰	(将 監 中)
部 員	佐藤 邦宏	(田 子 中)
部 員	須藤 由子	(南 吉 成 中)

教 育 課 題 部

部長 伊 藤 芳 郎

1 活動目標

多様な教育改革が進む中、当面する教育課題を直視して解決すべき調査研究を行い、学校運営に資するよう提言する。

2 活動内容

- (1) 平成23年度仙台市中学校長会活動方針前文及び3「当面する教育課題(1)～(8)」をうけて、仙台市における喫緊の今日的教育課題の分析と検討を行う。
- (2) 課題の絞り込みを行い、部員相互による協議を重ね提言をまとめる。
- (3) 課題に関して必要な実態調査を行い、検証資料とする。

3 調査研究テーマ

平成23年3月11日の東日本大震災を受けて、喫緊の課題として「東日本大震災に伴う避難所開設にあたっての課題等の集約調査、提言」の検討を調査研究のテーマとして、調査にあたっては、被災校を訪問して校長が抱える学校運営上の課題を探ることにした。更に調査していく中で、各学校の震災対応の記録化が必要ではないかと協議され、「東日本大震災への対応」として各学校の対応状況を記録にまとめ、記録集を発行するよう校長会に提言し、教育課題部が編集を担当することになった。

- ・東日本大震災に伴う各学校の対応調査
- ・記録集「東日本大震災への対応」の編集

4 活動計画と経過

各学校の状況を把握しながら、課題分析にあたった。

- 4.1 4 副部長選出、役割分担、活動内容と計画の確認

- 4.2 5 校長会からの要請内容を受け、調査項目についての話し合い、役割分担

6. 7 六郷中に訪問し、避難所継続の現状と課題についての講話と見学

7. 5 愛宕中、七北田中を訪問し、現在の教育活動の現状と課題についての講話と見学

- 9.1 3 青陵中等教育学校を訪問し、学校運営上の課題協議

11. 1 テーマの調査内容協議
12. 2 「東日本大震災への対応」のアンケート依頼 20日に送信
1. 6 各校の記述内容について協議
- 1.2 4 各校の記述内容について精査
2. 1 校長会例会にて各学校の震災対応についての分析会議

5 提案事項の概要

- (1) 東日本大震災に伴う各学校の対応調査

3月11日の東日本大震災後の対応を通して、仙台市中学校長会の教育課題部として喫緊の課題をどう捉えて提言や記録として残したらいいのか、部員一人一人に課題が突きつけられた。そこで、被災校の実態はどうなっているのかしっかり調査した上で、テーマの方向性を探っていく。被害状況や受取方に差が見られたが、震災が及ぼす影響は今後長く続き、市内学校共通の課題として捉える必要があり、そのためには各学校の実態把握と学校経営上の課題を共有化する必要があると、各学校の対応調査を行った。

- (2) 記録集「東日本大震災への対応」の編集

東日本大震災に対する対応を、初期対応、避難所開設・運営、学校再開に向けて、防災教育等その後の取組、校長としての思いなどの項目に分けて、評価点や課題点を記述してもらった。

3月中に製本印刷し、関係諸機関等に配付することができた。

〈教育課題部員〉

部 長	伊 藤 芳 郎	(三 条 中)
副部長	川 越 清 志	(中 田 中)
部 員	犬 飼 百 合 子	(生 出 中)
部 員	井 上 広 明	(幸 町 中)
部 員	高 橋 順 子	(長 命 ケ 丘 中)
部 員	三 品 良 春	(南 中 山 中)
部 員	八 柳 善 隆	(茂 庭 台 中)
部 員	渡 辺 尚 人	(仙 台 青 陵 中 等 教 育)

研 修 部

部長 中 嶋 豊

1 活動目標

- (1) 今日の課題に即応した学校教育の改善を図るための研修の企画運営を行う。
- (2) 学校運営・経営に参考となる研修の企画を行う。

2 活動内容

- (1) 各種研修の企画と運営を行い、会員相互の研鑽を深める。
- (2) 例会時の充実した研修の企画と運営を行う。
- (3) 各部との連携により、教育の今日の課題を明確化し、解決の方策を探る研修を充実する。

3 活動の概要

- (1) 4月14日(木) 臨時校長会(第1回研修部会)
- (2) 6月2日(木) 第1回研修会(第2回研修部会)
「東日本大震災後の復旧と学校再開まで」
講師 高砂中学校 校長 山田 和行
津波被害や地震による大規模災害を受けた学校からも当時の状況と避難所運営等について報告があった。
- (3) 6月20日(月) 第3回研修部会
- (4) 7月1日(金) 第2回研修会
「仙台市におけるミドルリーダー養成の研修体制について」
講師 教育センター主幹 山内 修
- (5) 7月27日(水) 第1回新会員研修会
「人事ヒアリング・学校運営」
講師 校長会副会長 大内 吉基
校長会総務部長 沼田 茂雄
- (6) 8月26日(金) 第3回研修会
「ミドルリーダー育成に関する情報交換」
第2回研修会を受けて少人数によるグループ研修を実施した。
- (7) 10月3日(月) 第4回研修会
「人事異動の基本方針について」
講師 教職員課主幹 新山 弘幸

教職員課主幹兼係長 鈴木 芳夫

今年度の仙台市人事異動基本方針についての理解を深め、教職員の異動事務の円滑化及び校長としての指導力の向上を図った。

- (8) 10月19日(水) 第2回新会員研修会
「人事異動事務について」
講師 人事部長 山田 和行 高砂中校長
人事副部長引地 信佳 折立中校長
- (9) 12月9日(金) 第5回研修会
「中学校における特別支援教育の現状と課題」～校長に期待すること～
講師 特別支援教育課
主任指導主事 秋山 一郎
増加する発達障害児への対応や進路問題等について研修を深めた。
- (10) 1月13日(金) 第6回研修会
「新教育課程の完全実施と新防災教育について」(仮題)
講師 教育指導課 課長 八巻 賢一
- (11) 2月1日(水) 第7回研修会
グループ討議「震災対応を振り返って」(仮題)
- (12) 3月3日(金) 第8回研修会
「年間の活動報告 ～各部より～」
第9回研修部会
・平成23年度反省 ・24年度計画立案

4 課 題

- (1) 東日本大震災への対応やその後の防災教育を中心とした研修を行ってきたが、今後も中学校校長会が一丸となって課題解決のための研修を充実していく必要がある。
- (2) 生徒指導部、研究部、教育課題部、人事部等との連携を図りながら状況に応じた研修を実施することができた。

〈研修部員〉

部 長	中嶋	豊 (第一中)
副部長	千葉	奈緒子 (桜丘中)
部 員	堀江	謙一 (南小泉中)
部 員	高野	仁士 (愛宕中)
部 員	澁谷	代志子 (北仙台中)
部 員	佐々木	成行 (八木山中)
部 員	庄子	明宏 (高森中)
部 員	及川	英之 (附属中)

人 事 部

部長 山 田 和 行

1 活動目標

人事に関する課題の解明と適正化に努める。

2 活動内容

(1) 人事に関する調査を行い、現状と課題等を把握する。

- ① 職員構成
- ② 現在校勤務年数別人数
- ③ 新採用教職員配当状況
- ④ 人事に関する要望事項他

(2) 人事調整会の運営を行う。

- ① 人事調整会資料の作成
- ② 人事調整会の運営

3 活動概要

(1) 第1回部会 4月14日(木)

- ・副部長選出、役割分担
- ・活動目標と内容の検討

(2) 第2回部会 6月 2日(木)

- ・年間活動計画の立案
- ・役割の分担

(3) 第3回部会 6月21日(火)

- ・調査結果のまとめと印刷、製本

(4) 市中校長会例会 7月1日(金)

- ・「人事に関する調査」結果の報告

(5) 市中校長会例会 10月3日(月)

- ・「人事に関する研修」

講師 教職員課主幹、主幹兼係長

(6) 新会員研修会 10月27日(木)

- ・人事異動関係研修
- 講師 人事部副部長

(7) 第4回部会 11月14日(月)

- ・人事異動基本方針の検討

(8) 第5回部会 12月14日(水)

- ・「人事異動基本調査」の集計
- ・調整会の資料作成、役割分担

(9) 臨時校長会(調整会)

1月6日(金) 於：ホテル白萩

(10) 第6回部会 3月3日(金)

- ・平成23年度部会の反省
- ・平成24年度の活動計画

<人事部員>

部 長	山 田 和 行	(高 砂 中)
副部長	引 地 信 佳	(折 立 中)
部 員	後 藤 邦 彦	(山 田 中)
部 員	小 川 淳 一	(七北田中)
部 員	菊 地 省 三	(八乙女中)
部 員	佐 藤 淳	(鶴が丘中)
部 員	片 倉 景 範	(寺 岡 中)

情 報 部

部長 小野寺 康 一

1 活動目標

- (1) 仙台市中学校長会Webページを更新し、広報活動に努める。
- (2) 必要に応じて適切な情報を会員に提供するように努める。
- (3) 仙台市中学校長会会員のメールアドレスの活用について検討する。
- (4) 仙台市中学校長会「紀要」を作成する。

2 活動内容

- (1) 仙台市中学校長会Webページを随時更新する。
- (2) 各部との連携を図り、資料の収集や適切な情報を会員に提供する。
- (3) 仙台市中学校長会の研究調査等の記録や報告、校長職務マニュアル等をWebページに掲載する。
- (4) 仙台市中学校長会「紀要」を作成し、会員に配布する。

3 活動の概要

- (1) 第1回情報部会 4月14日(木)
平成23年度「情報部組織、活動目標、活動内容」の検討・確認。副部長の選出。情報部会開催日の確認。
- (2) 第2回情報部会 4月25日(月)
活動内容の確認。Webページ作成、及び更新コンテンツ等の作成研修。
仙台市中学校長会総会の記録及び役割分担。 <※中止>
- (3) 第3回情報部会 6月2日(木)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
- (4) 第4回情報部会 7月1日(金)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
- (5) 第5回情報部会 8月26日(金)
仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。
- (6) 第6回情報部会 10月3日(月)

仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。

仙台市中学校長会「紀要」編集計画の検討。

- (7) 第7回情報部会 11月1日(火)

仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。 <※中止>

- (8) 第8回情報部会 12月9日(金)

仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。

仙台市中学校長会「紀要」原稿依頼。

- (9) 第9回情報部会 1月13日(金)

仙台市中学校長会「紀要」一次校正。

仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。

次年度「活動目標、活動内容」等検討

- (10) 第10回情報部会 2月1日(水)

仙台市中学校長会「紀要」二次校正。

仙台市中学校長会Webページの更新、コンテンツ等の作成。

次年度「活動目標、活動内容」等検討。

- (11) 第11回情報部会 3月2日(金)

今年度の反省と次年度の計画。

仙台市中学校長会「紀要」完成・配布。

4 その他

仙台市中学校長会「紀要」の発行については、平成19年度から、諸機関への配布分(冊子)を除き、CD化を行っている。平成23年度「紀要」についても、諸機関への配布分を除き、CDによる配布を行う。

<情報部員>

部 長	小野寺 康 一	(第 二 中)
副部長	小 松 尚 哉	(住吉台中)
部 員	櫻 井 健 二	(東仙台中)
部 員	郷 家 雄 二	(六 郷 中)
部 員	三 浦 文 道	(人来田中)
部 員	桜 井 重 行	(根白石中)
部 員	福 島 邦 幸	(南光台中)

行 財 政 部

部長 首 藤 眞 弓

1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。

2 活動内容

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言・要望をまとめる。
- (2) 年間予算案を提案する。
- (3) 収入・支出状況の把握と中間決算報告を行う。
- (4) 決算報告を行う。
- (5) 財務内容について検討し、次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3 活動概要

- (1) 臨時校長会 4月7日(金) 教育センター
・活動目標・活動計画作成
- (2) 校長会総会 4月25日(月) ホテル白萩
・22年度決算報告及び監査報告
・23年度予算の提案
- (3) 第1回行財政部会 5月30日(月) 西山中
・調査研究は「東日本大震災義援金使途」
・会費及び負担金等の集金計画
・義援金一次アンケート作成
- (4) 校長会6月例会 6月2日(水) 教育センター
・義援金一次アンケート【調査期間 6/2～6/10】
- (6) 第2回行財政部会 6月22日(水) 西山中
・義援金一次アンケートのまとめ作成
- (7) 校長会7月例会 7月1日(金) 教育センター
・義援金一次アンケート結果報告
・義援金一次事務手続きの連絡
- (8) 校長会8月例会 8月26日(金) 教育センター
・義援金一次活用報告書・受領書綴を回収
- (9) 中間監査会 9月30日(金) ホテル白萩
- (10) 第3回行財政部会 11月1日(火) 教育センター
・義援金二次の内容確認

- (11) 第4回行財政部会 11月25日(金) 西山中
・義援金二次アンケート作成
- (12) 校長会12月例会 12月9日(金) ホテル白萩
・義援金二次アンケート実施【調査期間 12/9～12/22】
- (13) 第5回行財政部会 1月6日(金) ホテル白萩
・義援金二次アンケートのまとめ作成
・義援金三次実施原案作成
- (14) 校長会1月例会 1月13日(金) ホテル白萩
・義援金二次アンケート結果報告
・受領等事務手続きの連絡
・義援金三次アンケート実施【調査期間 1/20～1/30】
- (15) 第6回行財政部会 2月1日(水) 教育センター
・義援金三次アンケートのまとめ作成
- (16) 校長会2月例会 2月1日(水) 教育センター
・義援金三次アンケート結果報告
・受領等事務手続きの連絡
- (17) 校長会3月例会 3月2日(金) ホテル白萩
・義援金二次活用報告書・受領書綴を回収
- (18) 23年度会計監査 3月中旬 ホテル白萩

(19) 集金

- 4/25(月) 公務員賠償責任保険申込み
9/8(木) 市中校長・仙塩地区高等学校校長連絡会
11/4(金) 県・市中学校長研究協議会本吉大会
昼食代
11/7(月) 市中学校長・私立高等学校校長連絡会
12/9(金) 仙台市中学校長会懇談会
1/6(金) 臨時校長会昼食代

<行財政部員>

部長 首 藤 眞 弓 (西山中)
副部長 小 嶋 正 敏 (将監東中)
部 員 高 橋 秀 策 (西多賀中)
部 員 渡 辺 洋 一 (沖野中)
部 員 及 川 正 志 (松陵中)
部 員 齋 藤 利 章 (館 中)

生徒指導部

部長 志賀野 博

1 活動目標

積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実
～生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～

2 活動内容

- (1) 大都市特有の生徒指導に関する諸問題の調査研究
- (2) 関係諸機関との行動連携強化
- (3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
- (4) 特別支援教育の現状と課題について調査研究
- (5) 家庭・地域との連携による生徒安全対策の推進
- (6) 中学校体育スポーツに関する事項

3 活動の概要

- (1) 第1回部会 4月14日(木)

①正副部長の互選

部長 志賀野 博(東華中)

副部長 尾形 孝徳(岩切中)

②活動目標、内容、活動計画、組織等の検討

前年度活動の成果と課題の確認、並びに本年度組織編成、担当分掌の活動内容計画の策定

- ・生徒指導班((1)(2)(5))・研修班((2)(6))
- ・特別支援班((4)) ・部長、副部長((3))

③全市(各区)生徒指導主事連絡協議会、校外指導連盟、青少年対策四機関研修、小中学校生徒指導部合同部会の事業計画・運用の検討

- (2) 第2回部会 7月15日(金)

「仙台市青少年対策四機関・小中学校校長会生徒指導部会合同会議」(於仙台市子供相談支援センター)
講話「東日本大震災からの復興にむけて」

仙台市震災復興本部震災復興室主幹梅内 淳 氏

- (3) 第3回部会 10月18日(火)(於北庁舎5F)

「仙台市・中学校校長会生徒指導合同部会」

今年度から、教育相談課の指導助言を受けながら4つのテーマに沿い分科会形式の研修会を中学校が当番として設定した。

①第一分科会(教育相談;話題提供者

平塚 好伸 広陵中学校長)

②第二分科会(生徒指導;話題提供者

志賀 琢 柳生中学校長)

③第三分科会(適応指導;話題提供者

菅原 敏彦 八軒中学校長)

④第四分科会(特別支援;話題提供者

村上 渉 吉成中学校長)

- (4) 第6回部会 1月20日(金)

全市生徒指導主事連絡協議会の開催

- (5) 第7回部会 3月2日(金)

①本年度事業の成果と課題②次年度事業の検討

- (6) 第28回生徒指導管外研修会

平成23年11月17日(木)～11月18日(金)

①〇八潮市教育委員会;視察並びに教育長講話

〇東京都教育委員会;講話並びに情報交換

②〇八潮市立大瀬小学校;視察

・小中一貫教育;研究発表会参加

〇国立教育政策研究所;講話(滝充統括研究官)

- (7) 第4回部会 12月9日(金)

「中学校における特別支援教育の現状と課題

-校長先生に期待すること-」研修部と共催(講師;秋山主任指導主事)

- (8) 仙台市生徒指導主事連絡協議会運営

・全市、各行政区部との情報交換

・関係諸機関との情報交換

・中総体、夏・冬長期休業、高校入試対策

・組織改編による今年度からの実施運営

- (9) 仙台市校外指導連盟運営

・校外での生活指導と事故防止対策

(水難事故、交通事故、繁華街での事故等)

・中総体期間中の事故防止対策

(対策本部設置・市内5箇所)

・危険箇所確認と巡回指導、小中合同会議等

・組織改編による今年度からの実施運営

- (10) 第5回部会 12月10日「児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会」文科省主催

- (11) 全国特別支援学級設置協議会調査の協力

<生徒指導部員>

〇部 員 菅原 敏彦(八 軒;研修)

生徒指導主事連絡協議会全市監事

〇部 長 志賀野 博(東 華)

〇部 員 佐藤 一弘(七 郷;生徒指導)

市地域ぐるみ生活指導連絡協議会副会長

仙台市校外指導連盟会長

〇副部長 尾形 孝徳(岩 切)

〇部 員 手塚 健太(袋 原;生徒指導)

生徒指導主事連絡協議会全市部長

仙台市中教研生徒指導部会長

〇部 員 村上 渉(吉 成;特別支援)

〇部 員 平塚 好伸(広 陵;生徒指導)

宮城県特別支援学級設置協議会副会長

仙台市要保護児童対策育業地域協議会

〇部 員 山内 正通(向陽台;特別支援)

〇部 員 志賀 琢(柳 生;研修)

仙台市校外指導連盟監事

市地域ぐるみ生活指導連絡協議会幹事

2 研究調査等報告

(1) 研 究 部

(2) 教育課題部

(1) 研 究 部

「教師力の向上を目指す
校内研修の在り方」

研究題

教師力の向上を目指す校内研修の在り方

仙台市中学校長会研究部

I はじめに

教職員の資質・能力の向上は、学習指導や生徒指導等、学校の教育活動の充実や保護者・地域の学校に対する信頼に関わる学校経営の重要な課題の一つになっている。中教審答申「新しい時代の義務教育を創造する」（平成17年度）に於いても、義務教育の質を向上させるために、教職員の資質・能力の向上が必要不可欠であることが示されている。

仙台市中学校長会研究部会では、平成20年度より「教師力の向上を目指す校内研修の在り方」について研究に取り組んできた。仙台市内各校の取り組みの状況や経過から、教師力の向上に向けての工夫や課題を探ることが学校経営に役立つものと考え、本主題を設定した。

II 研究目標

教師力の向上を目指した校内研修の在り方について、実態を把握し、改善の方策や望ましい在り方を考察することにより、学校経営の一助とする。

III 研究の方法

1 研究の視点

(1) 「教師力」について

平成17年10月に公表された中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」をもとに、教師力として以下の6点を押さえた。

- ・意欲
- ・授業力
- ・生徒指導力
- ・事務遂行力
- ・危機管理能力
- ・豊かな人間性

(2) 「校内研修」について

研修には様々な態様があるが、教師力の向上は学校全体の教育力や組織力に結びつく必要があるという観点から、校内研修の在り方に焦点を当てた。

2 研究の経過

(1) 平成20～21年度（第1次）

市内校長を対象に、教師力について上記6つの視点から、その向上を目指す上で有効と捉えた校内研修の内容についてアンケート調査を行い、その結果の分析を通して、教師力の向上を目指す校内研修の在り方について考察した。（資料1）

(2) 平成22～23年度（第2次）

第1次の研究内容をもとに、教師力の向上を目指す校内研修の在り方について、次の2つの視点から調査・考察した。

- ① 校内研修計画の立案（校長のリーダーシップと関連して）
- ② 学校規模に応じたミドルリーダー育成の在り方

IV 研究の内容

1 校内研修計画の立案

教師力の向上を目指す校内研修を充実させるためには、教師の課題意識を高めると共に、校長のリーダーシップが不可欠である。校内

研修の充実を図るには、その内容が場当たりのなものではなく、それぞれの学校の課題を踏まえた内容について、計画的に実施していく必要がある。

本研究部では、学校経営上の課題を踏まえた計画的な校内研修の実施を目指し、市内64校の校長に校内研修計画の提出を求めたところ（資料2）、次のような結果であった。

(1) 授業力向上に向けての研修

教科部会や指導案検討会、授業公開（見せ合い授業）等が位置づけられ、ほとんどの学校が1年間を通して計画的・継続的に実施する計画となっている。また、研修担当者が研究主任や特支コーディネーター等、月によって定められている計画もあり、組織的に実施するよう工夫された計画も見られる。

(2) 生徒指導力の向上を目指す研修

生徒理解研修、いじめ・不登校対策、特別支援教育研修・教育相談研修が見られ、4月に生徒理解、7月に不登校対策など時期に応じた研修を行う計画が多く見られた。中には情報モラルについての研修や人間関係・ソーシャルスキルに関する研修など、生徒の実態を踏まえた内容が盛り込まれた計画が見られた。

(3) その他の研修

授業力、生徒指導力以外の研修では、4月に食物アレルギーに関する研修、7～8月にコンプライアンス研修、危機管理研修等が多く見られた。

なお、震災に関連する防災研修、心のケア研修等については、本研修計画を震災前に提出した学校もあり、必ずしもすべての学校で計画に盛り込まれてはいない。

(4) 校内研修計画のもとに進められた例

① A校では、校長のリーダーシップのもと、毎月学校危機管理研修を行っている。これは、弁護士から見た学校事故の考え方や対策の留意点を「教育問題法律相談」

として職員会議の際に教職員に示し、危機管理能力の向上を組織的・計画的に図っているものである。

実施にあたっては、校長が生徒指導で培った豊かな見識をもとに、例えば4月の研修であれば修学旅行に関わる事故など、時期と内容との関わりを考慮して実施している。法律の専門家である弁護士の考え方や留意点は、教職員にとっても新鮮で課題意識を高める内容であり危機管理意識の向上に結びついている

② B校では、校長の指導のもと、5つの校内研修グループを編成し、OJTの充実を図っている。B校の教職員構成は、若い教員からベテラン教員まで比較的バランスがとれており、校内研修を効果的に進める方策として、全体研修ではなく5つの小グループによる研修を実施したものである。

グループ編成は、教職経験5年以内の教員を中心に、リーダーとしてミドル・ベテランの教員を配置し、1グループ7～8名で編成している。グループ研修の全体計画を作成するのは各グループのリーダーであり、校内研究計画にもとづいた授業づくりと、グループのメンバーで協議するグループ毎のテーマに基づいた研修がその内容となっている。

授業づくりの研修では、グループ内の若い教員とミドル・ベテランの教員が各1回ずつ授業を行い、若い教員が意欲的に学ぶことができる場にするなど、小グループの特性を生かして研修が進められている。（資料3）

③ C校では、初任者層（1～6年）の学級経営力の向上を目指し、メンター研修を実施している。メンター及びメンター研修とは以下のようなものである。

・ メンターとは、知識、スキル、経験、人脈などが豊富で成功体験を持ち、役

割モデルを示しながら指導・助言などを行う支援者を指す。

- ・ メンター研修で支援を受ける者をメンティーと呼ぶ。
- ・ メンター研修では、指示や命令によらず、対話やメンターからの助言により、メンティー自身の気付きや自発的・自律的な成長を促すプロセスが重視される。

C校では、メンター研修は、経験豊かなメンター2名と8名のメンティーで研修メンバーを構成し、月1回30分程度、テーマを絞り事例研究を実施してきた。

実施後のアンケートを見ると、メンター研修会は、学級経営力の向上に役立つと捉えた教員が多く、その理由は、「多くの先生の考え方や手法を知るのがためになる」「他の学級の取り組みを知ることができ参考にできた」などであった。一方、実施日程や時間の確保について負担を感じる教員の意見もあり、構成メンバーと研修の持ち方について、学年単位で実施するなど、現在も工夫・改善を図っている。(資料4)

2 学校規模に応じたミドルリーダー育成の在り方

平成22年度の研究を進める中で、教師力向上に深く関わる新たな課題が浮上してきた。それは、仙台市において職員構成のアンバランスにより、教職員の高齢化と若年化が加速度的に進行し、経験の浅い管理職の増加により、若手教員の指導や学校経営力に不安が生ずるという問題である。教職員の高齢化と若年化は、とりまなおさずミドルリーダー層の不在であり、経験の浅い管理職の増加に対しては管理職を支えるミドルリーダーが必要不可欠となる。つまり、ミドルリーダー育成は喫緊かつ継続して取り組むべき課題であり、本研究で取り組んでいる教師力向上と表裏一

体となる課題と考えられる。

そこで、23年度は「教師力向上を目指す校内研修の在り方」について「ミドルリーダー育成」という視点を加えた。そして、現状を把握するために下記のアンケートを実施した。

(1) アンケート調査の実施

① 実施日

平成23年8月1日～8月22日

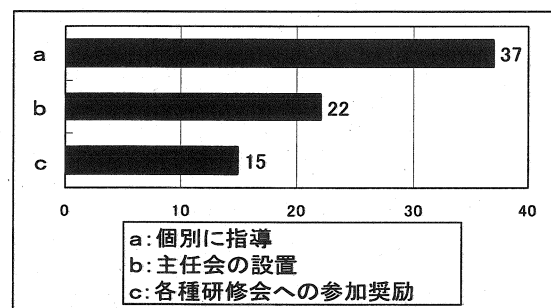
② 調査対象

仙台市内の中学校及び中等教育学校の校長(64校)

③ 回答数 52校

(2) アンケート結果

① 調査項目1「ミドルリーダー育成のために実践していること」の回答



1) 個別指導について

自由記述で1番多かったのが「個別指導」(37/52)である。仙台市が教師力向上を目指して実施を義務づけている「教育活動改善シート」を積極的に活用したり、校務分掌や特別なミッションを与え、校長が適宜アドバイスしたりする機会を多くするなど、きめ細かい直接指導を実践している。

ある学校では、本研究部で作成した「授業力自己診断シート」「生徒指導力自己診断シート」「危機管理自己診断シート」を活用し、面談に先立ち、予め自己評価してから面談に臨ませることで、事前に自分の仕事に対する姿勢を各自が整理することができ、短時間に面談をより効果的に行っている。

1人1人の年齢に応じた仕事内容の自覚を促す工夫をしている学校も見られた。

また、別の学校では、面談の際に、仙台市教育センターで作成した「仙台版いきいき教員づくり～仙台市の求められる教員の姿～」を示して、各教員に対して、年齢に応じた具体的な姿をイメージさせることで自覚を促しているとの報告もあった。

2) 主任会の設置及び活用

2番目に多いのが「主任会の設置及び活用」(22/52)であった。これは中規模の学校での記入が多い。「学年主任会」や「主任会」と表記されたものがあつた。構成メンバーについては、学年主任だけの場合とそれ以外の生徒指導主事や教務主任が加わっている例も見られた。また、「主任会」は時間割の中に設定することで定例化されたものと随時開催するものがあつた。

ここでの協議内容は、情報交換も含め様々である。しかし、学年主任や教務主任に具体的な事例を通して、校長が直接、指導や助言ができる貴重な機会であると捉えている。また校長の指示伝達も職員会議よりも明確に伝えることができる、などの記述があつた。各学校において、多くの校長が、この主任会を校内研修の機能を持たせたミドルリーダー育成の機会と位置付け、学校経営への参画意識を高めたり、学年経営力を高めたりすることを意図していることが見て取れる。

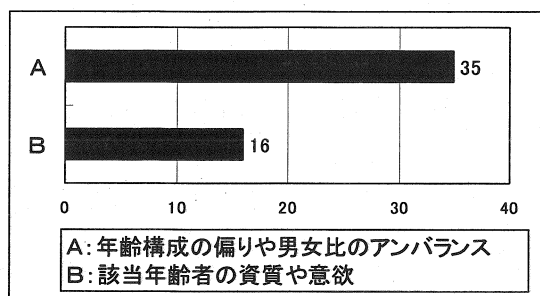
一方、随時開催となると、なかなか開催できないという課題の指摘もあつた。

3) 各種研修会等(外部)への参加奨励

3番目は「各種研修会等(外部)への参加奨励」(15/52)である。

多くは教育センター等でのミドルリーダー育成に類した研修であるが、中には先進校視察や1日単位での他校研修実施という実践もあつた。本人からの申し出が望ましいが、校長が意図的に指名して参加させないと多忙を理由に参加しない傾向にあることは否めない。学校経営とリンクさせながら、長期的展望に立った研修計画が必要であると思われる。

② 調査項目 2「ミドルリーダー育成の現状と課題」の回答



1) 年齢構成の偏りや男女比のアンバランス

この項目でこの課題を挙げたのは52校中の35校であつた。年齢構成の偏りについては、約9割の学校が取り上げている。学校規模が縮小する中、特に小・中規模校では深刻な問題であることが分かる。今までややもすると、一時的な個別の問題と捉えられがちな傾向があつたが、仙台市全体に関わる大きな課題になっているということを改めて思い知らされるアンケート結果であつた。

2) 該当年齢者の資質や意欲

この項目でこの課題を挙げたのは16校である。

「ミドルリーダーとなる年齢層の教員が全くいない」とか「年齢・男女別アンバランス等があるため、ミドルリーダー育成以前の問題」という悲痛な叫びにも似た記述が数例あつた。ま

た、規模の大小にかかわらず、50代の割合が多く主要な校務を占めているために、若手を育成する場の設定が難しく、若手の力を伸ばしきれないという実態が見て取れる。

③ 調査項目3「その他」

「学年生徒指導担当者打合せ」を定例化させた実践や「OJD (On the job Development) 活性度診断」, 「OJT実践シート」を活用する事例が見られた。

- (3) 学校規模別グループでの話し合いの実施
前述したアンケートをもとに、今年度も学校規模別グループでの話し合いを、9月の校長会定例会の際に実施した。学校規模の区分けは、便宜的に18学級以上を大規模校、5学級以下を小規模校、その間を中規模校としてグループ分けした。

このアンケートと話し合いによって見えてきたことは以下の通りである。



＜規模別グループ話し合いの様子＞

- ① どの規模でも年齢構成の偏りを指摘する学校が多い。50代の割合が多く20代から40代前半が少ない。ミドルリーダー育成に関して、この偏りが学校規模別にどのような影響を与えているか見ると、ある傾向が見えてくる。

小・中規模校では、50代の学年主任をミドルリーダーと捉え、学校経営の柱として育成に力を入れている状況の学校がほとんどである。中には意欲や資質等に課題はあっても、責任ある校務分掌を預

け、励まし、校長が具体的に指導し、本人に自信と自覚を持たせようとしている事例も見られる。

- ② 中規模校はこれに加えて、主任層にも焦点を当て、重責を与えたり、ミドル層をリーダーとしてチームを編成したりするなどして、具体的な学校課題に取り組ませる事例が見られた。

- ③ 大規模校になると50代の学年主任に関してよりは、今後の成長が見込まれる40代や女性のミドルリーダー育成に関しての課題が出てくる傾向がある。話し合いの中では、この状況に対して「責任ある仕事を任せる」ことや「年齢よりは意欲や資質を重視」した校務分掌が有効であるという認識で一致した。

④ 効果的と思われる事例

- 1) D校は、中規模よりやや小さい学校である。ここでは、ミドルリーダー育成の方策として「主任会」を位置付け、定期的実施するために、時間割上に位置付けている。また、このように時間割に設定している学校は、中・大規模校にも多く見られた。時間割上で位置付けて時間を確保することにより、定例化された研修を頻度を高めて実施することになり、本人の意識の高まりや研修の深まりが多く期待できる。

- 2) 大規模校においては、ミドルリーダー育成を学年主任以外の若い世代まで広げ、校内の多様な人材を有効に活用した校内研修を実施していた学校も見られた。前項の「校内研修計画の立案」でも具体的に触れているが、ベテランから若手まで上手に組み合わせた校内グループ研修を実施しているB校（前述）や「メンター研修」を実施しているC校（前述）は優れた事例である。この二つの事例に共通しているのは、ミドルリーダー育成という柱とともに

に、初任層や中堅層の育成にもつながっているという点である。多忙な中で、の研修時間確保や研修を軌道に乗せるまでに多くの苦労はあるであろうが、一石二鳥とも言える大変示唆に富んだ実践である。

(4) 仙台市教育センターの研修内容に関する説明会の実施

仙台市では、毎年、年度末に教頭を対象として、次年度の研修内容の説明会を実施している。校長を対象とした説明会は実施しておらず、教育センターの研修内容を深く理解する機会があまりなかった。

そこで、平成23年度については、「ミドルリーダー育成」の観点から、校長会として教育センターにおけるミドルリーダーの研修内容についても、校長自身が十分に理解していることが必要と考え、6月に教育センター主幹より、教育センターの「仙台版いきいき教員づくり研修構想」についての講義を受けた。

教育センターの意図していることやその内容について校長自身が直接話を聞くことで、自分の学校現状を踏まえながら、教育センターの研修内容とどのようにリンクすべきなのかなど、具体的にイメージすることができ有意義であった。

V おわりに

1 校内研修計画の立案については、アンケートの結果から、各校が積極的に校内研修に取り組んでいる様子が分かった。

校内研修計画は、教師力の向上を目指す校内研修を充実させるために、校長に作成を依頼したものである。学習指導、生徒指導、危機管理等多岐にわたる校内研修の内容について、校長がリーダーシップを発揮し、学校経営の方針や学校課題に即して重点化した計画や創意工夫をこらした実践を共有化することができた。

学校経営の活性化の第一歩は、校内研修に積極的に関わろうとする校長の姿勢から始まると考える。今後も教師力の向上を目指し、学校経営と直結した校内研修の在り方について、さらに追究したいと考える。

2 校長会研修部とタイアップして実施した小グループでの情報交換では、教職員の実態、生徒や地域の実態が異なる中での協議ではあったが、校内研修の内容や方法等について情報交換をすることで、校長自身が自分の学校をより客観的に見つめる視点を得、学校経営活性化への良い刺激を得ることができた。

今後も限られた時間ではあるが、研修部とタイアップしたこのようなグループ討議や情報交換会を行うことで、仙台市全体としての校長の学校経営の質を高めることが期待できるものと考ええる。

3 「ミドルリーダー育成」の在り方に関しては、「ミドルリーダーとは」についての整理が十分でなく、様々な視点からの意見があり、話し合いの深まりに課題が残った。

今後、校長会として「ミドルリーダーとは」について議論し、整理する必要があることを痛感した。例えば「学校規模に応じたミドルリーダーとは」「学校規模を超えたミドルリーダーとは」「その育成のためにはどのような研修が必要なのか」などをさらに追究していきたい。

いずれにしても、今年度については、この「ミドルリーダー育成」の視点はスタートしたばかりなので、今後、研修内容などをさらに吟味する必要があるものと考ええる。

東日本大震災を経て、学校は、地域や社会から多くのことを期待されている存在であることが明確になった。その土台となるのは、教師に他ならない。教師力の向上を目指すために、校内研修は今まで以上に、より組織的・計画的に実施されなければならないと感じている。

資料編

- 資料1 校内研修計画
 資料2 OJT研修
 資料3 メンター研修
 資料4 第31回宮城県・仙台市中学校長会研究協議会本吉大会発表資料

【資料1 校内研修計画】

平成23年度校内研修計画					
		学校番号		中学校	
項目 月	協働型学校評価 (さわやかな挨拶のできる生徒の育成)	授業力向上 (応用力をはぐくむ言語活動を生かした授業づくりの研究と実践)	生徒指導力向上 (力強く歩むための自己教育力を育む生徒を育てる)	その他	備考
4月	協働型学校評価における重点目標の趣旨の理解	教科部会 (研究テーマや実施計画の確認) シラバスの作成	生徒理解研修	学級経営案の作成についての研修 緊急連絡網の整備と確認	
5月	各自の「改善シート」作成 「故郷復興プロジェクト①」の指導	教科部会	情報モラル研修	「震災復興プロジェクト」(生徒会主催)の指導 「改善シート」の記入説明会	
6月	学校関係者評価委員会①	教科部会 指導案検討会(理・数)	QU検査研修会①	防災計画研修会①・避難訓練① 「公務員・服務倫理チェックシート」記入	
7月		授業づくり訪問 授業検討会(理・数)	不登校対策研修 家庭訪問についての研修	「故郷復興プロジェクト②」の指導 AED取扱い研修会	
8月		教科部会 教育課程説明会伝達講習	特別支援教育研修	「懲戒処分の基準」についての研修	
9月		全員授業(～2月まで)			
10月	学校関係者評価委員会②	教科部会	教育相談研修		
11月		教科部会 指定都市国語研究大会仙台市大会 (本校会場、国語の授業公開)	QU検査研修会②	「故郷復興プロジェクト③」の指導 防災計画研修会②・避難訓練②	
12月		教科部会	不登校対策研修	「故郷復興プロジェクト④」の指導 「公務員・服務倫理チェックシート」記入	
1月	重点目標に関して校内での評価	教科部会		入試事務に関わる事故防止研修	
2月	学校関係者評価委員会③ 「改善シート」の自己評価 重点目標に関しての全体評価	教科部会(研究のまとめ)	年間の事故報告等の集計		
3月		「研究のまとめ」の完成			

【資料2 OJT研修】

校内グループ研修OJT (On the Job Training)

★〇〇中OJTの概要

はじめに：本校の教職員構成は、若い先生からベテランの先生まで比較的バランスがとれており、若い先生方の校内研修の機会に恵まれた学校である。しかし実際には、そのチャンスを逸している場合もあり、また、聞きたいことをじっくりと相談する余裕がないこともある。そこで、校内での研修をより効果的に進める方策として、今年度小グループによる〇〇中版OJTを実施することとした。全体研修よりも、小グループによる研修は、その内容や時間、形態と工夫して進めることができる長所がある。〇〇中版OJTが実るように教職員の理解と協力をお願いするものである。

グループ編成：教職経験5年以内の先生方（＝フレッシュ先生）を中心に、ミドル・ベテラン先生方の教職年数や研修歴、今年度の校外研修（Off-JT）の受講予定を考慮して、1グループ7～8名の少人数グループを編成する（A～Eの5グループ、右の表を参照）。

	グループA	グループB
リーダー	先生	
サブリーダー	先生	
メンバー	先生 ...	
授業者		

グループリーダー：グループ研修の全体計画を立案する、フレッシュ先生の育成を目的とした全グループ共通の授業づくり研修の他、グループ別テーマ研修を設定する。教育センターのサポート訪問や他の外部指導者を招いた研修を企画しても良い。

OJTの内容：全体テーマとグループ別テーマに基づく二本立て研修を実施する。

○全体テーマに基づく研修

- 1) 今年度の校内研究主題に基づいた「授業づくり」を中心に進める。
- 2) グループ内で授業者を選び、今年度の研修主題に沿った研究授業と授業検討会を企画実施する。
- 3) 指導案づくりについては、グループとは別に教科部会の協力を図りながら研修を深める。
- 4) 研究授業は、グループで2回以上開催しフレッシュ先生層とミドル・ベテラン先生層から各1名以上の授業者を選出する。（※3年に1回は必ず授業を実施する。2年続けて同じ先生が授業者にならないように留意する。）

○グループ別テーマ研修

- 1) グループのメンバーで協議し、テーマ設定を行う。
- 2) 年、2回以上の研修会を開催する。（内、1回は夏休み期間に実施する）
- 3) 研修内容は、以下の項を参考にして立案する。
 - a フレッシュ先生のニーズに応じた研修
 - b リーダー、サブリーダーが企画する研修（得意分野を生かした研修、Off-JTの伝達等）
 - c 外部講師を招いての研修（教育センターサポート訪問の活用、外部講師依頼等）
 - d 校外研修（博物館・美術館等の施設研修、保育所・福祉施設等の訪問研修等）
 - e その他

OJTの年間計画：以下の予定計画に従って、立案・実施・まとめを進める。

時期	立案期(5～6月)	研修1(7～8月)	研修2(9月～10月)	研修3(11月～12月)	まとめ(1～2月)
研修計画項目	*グループ配当決定 *研修計画立案 (リーダー研修打合せ)	*グループ会議 (計画の確認) *夏季研修 (グループ別テーマ研修)	*全体テーマ研修 or グループ別テーマ研修	*全体テーマ研修 or グループ別テーマ研修	*研修記録の整理 *次年度への反省と課題



学級経営向上のために先輩教諭(左の2人)と話し合う若手教員

仙台・富沢中

(報道部・佐藤孝子)

「どうすれば、席替えでもめないか」「掲示物の効果的な張り方とは?」。仙台市富沢中(太白区)は2009年度から、中堅教員が助言役の「メンター」――として、若手教員に学級経営の指導技術を伝える「メンターチーム」の活動をしている。市内で唯一の試みで、悩みを相談できる先輩後輩の関係づくりや、学校全体で若い教員を育てる雰囲気づくりに取り組んでいる。

指導の悩みにメンター

中堅教員、若手へ助言

事例を共有自らも再確認

チームは教員歴6年未満の教諭(25)は昨年度、初めした。生徒の出欠確認とで、自分の失敗談も伝え、満の8人と、40歳前後の担任を受け持った。勝った細かい質問もできている」と言う。伊藤茂2人で構成。昨年2月か手が分らず、最初の2、3の放課後の教室で月1、3カ月は朝の会や帰りの会、事例研究を行っていた。会の運営、給食指導などのルールを徹底できなかった。テーマは2月が「学級開き」で、年度末の3月は「先輩教員は「周囲の先生は「担任初年度を終えての失敗や悩み」、6月は「行事での生徒のやる気」が大切」などとアドバイスを。小村田教諭は「先輩教員が発表者や同世代の同僚の話で、自覚だけが悩んでいるの

教員3年目の小村田貴寛ではないと分かり、安心やる気どう引き出す

掲示物の効果的方法

ルール徹底の仕方は

■ **メンター** 古代ギリシャの叙事詩に登場する老賢人「メントール」の名に由来し、助言者の意味。年齢や教員歴の近い先輩が相談や指導を通して、若手の仕事上の悩みを解消し、自立的な発達を促す。若手教員が多い横浜市では、多くの学校でメンター制度が取り入れられている。

富沢中のメンターチームは、前校長の青沼一民(仙台市教員)が発案した。教員52人が在籍する大規模校のメリットを、活動に生かせる考えた。庄子修校長は「学級経営は教育センターや初任者研修で学ぶが、あくまでも一般論。若手と先輩が意見を交わすことで、双方に活力が生まれる」と話している。

【資料4 第31回宮城県・仙台市中学校長会研究協議会本吉大会発表資料】

＜第1分科会＞話題提供③

「避難所としての立ち上げ」（前任校仙台市立五橋中学校の事例）

仙台市 小川 彰(将監中)

1 避難所開設・運営の支援マニュアルでの計画

- (1) 支援マニュアルでは主に地域住民の避難を想定（帰宅困難者については想定外）
- (2) 避難所として武道場を予定（体育館や教室を開放する予定はなかった）
- (3) 備蓄の食糧や水は200～300名で2～3日分
カンパン600食、クラッカー630食、アルファ米1,200食、飲料水600ℓ（外 仮設トイレ、救急箱）

2 生徒・避難者の状況

- (1) 生徒の状況
 - ① 1・2年生が卒業式準備にあたっていたが、けが人はゼロ
 - ② 教員が自宅まで引率し、保護者に引き渡し（保護者不在の生徒は学校に連れ帰り学校待機）
 - ③ 学区外の生徒は、学校待機（保護者不在の生徒とあわせ10数人が待機）
- (2) 避難者の状況
 - ① 想定外の避難者および避難者数（推定およそ2,000名）
 - ・ 駅やホテルからの避難者（駅やホテルでは「近隣の避難施設」として五橋中学校を指示）
 - ・ 市立病院からの紹介（病院が病状の軽易な方の避難先として指定）
 - ② 避難場所の割り振り
 - ・ 避難者の増加に伴い、武道館、体育館、普通教室の順で開放（地域住民・帰宅困難者中心）
 - ・ その他 会議室（市立病院からの避難者）、多目的室（生徒）、1階ラウンジ（授乳室）

3 避難所の立ち上げ時の状況（行政・地域・学校）

- (1) 行政
 - ① 本来の動き
青葉区役所災害対策本部が学校に開設要請 → 要請を受けて学校が避難所開設
 - ② 実際の動き
 - 1) 要請が来る前に多数の避難者が押し寄せたため、校長の判断で避難所を開設
 - 2) 避難所開設後に災害対策本部へ連絡したが、避難所開設を決定していないとの回答
 - 3) その数十分後「避難所とすることに決定した」旨、災害対策本部から連絡あり
- (2) 地域 避難所運営に対し、町内会の積極的な関わりは見られなかった。
（地域住民よりも圧倒的に多い帰宅困難者への対応は困難）
- (3) 学校 学校が全面的に避難所を立ち上げ
 - ① 武道場、体育館、校舎を避難所として開放
 - ② 正門前にテントを設営して受付・誘導
 - ③ 校内巡視、廊下・トイレ等へ明かりの確保、水や非常食配布の準備、トイレ用水の補給

4 今後に向けて（得た教訓）

- (1) 地域（町内会）、行政との細部にわたる打ち合わせが必要（手順、役割分担等の明確化）
- (2) 避難者名簿の作成、避難者の人数把握
- (3) 教職員の細かな役割分担（生徒の安否確認と避難所の立ち上げに並行して当たるため）
- (4) 都心の学校では、帰宅困難者への対応策が必要



【避難所運営予定表】



【避難者伝言用黒板】



【一日目夜の体育館(実際は真っ暗)】

〈参考文献〉『東日本大震災に際しての避難所の管理・運営等の記録』 参照

[発行人] 仙台市立五橋中学校 校長 高橋 泰

(2) 教育課題部

「東日本大震災への対応・記録粹」

東日本大震災への対応

No.	仙台市立 中学校																			
住所	仙台市 区				耐震補強完了年度		校長氏名		平成22年度											
					平成 年 月				平成23年度											
学校概要		生徒数	学級数	職員数	所在地概要	特記事項														
	3月11日					市街地 (「市街地・団地・山沿い・川沿い・海岸沿い・その他」から選択してください)														
	5月1日																			
	10月7日																			
	卒業式 実施予定日	2011/3/	卒業式 実施日	2011/3/	入学式 実施予定日	4月11日	入学式 実施日	2011/4/												
施設被害 状況	体育館	特記事項		武道館	特記事項		校舎	特記事項												
	被害の有無			被害の有無			被害の有無													
校地内外・ 周辺被害 状況	被害の有無																			
津波被害 状況	被害の有無																			
避難所開設 状況	開設の有無	開設期間	3月 日 ~ 3月 日	電気の復旧	2011/3/	水道の復旧	2011/3/	ガスの復旧	2011/ /											
A 初期対応	観点	対応					評価点			課題点										
	初期対応の概略	◎事前の震災対応 ○ ◎学校対応の概略(地震発生から避難所開設までの動きを記入) ○																		
	①教職員に関して	◎教職員の対応(具体的に記入) ○地震発生時 ・ ○発生から生徒避難へ ○被害点検 ○緊急連絡 ・					○地震発生時 ・													
	②生徒に関して(引き渡し・安否確認含む)	○地震発生時 ・																		
	③地域連携に関して	○地震発生以後の動き ・																		
	④行政の対応に関して	○行政との連絡状況 ・																		
	⑤その他																			

観点	対応	評価点	課題点
避難所開設・運営の概略	◎避難所開設・運営の概要(開設から閉鎖までの間をまとめる。長い場合は、何期かにまとめてもよい。) ○開設期間・・3月 日～ 日 ○避難者数・・最大で 名、 ○避難物資の配布期間・・3月 日～ 日 ○概要・・		
①教職員に関して	◎避難所開設・運営の具体的な対応 ○3月11日(金) ・ ○避難所運営 ・ ・ ○3月12日(土) ○3月13日(日) ○3月14日(月) ○3月15日(火)以降		
②生徒に関して	○避難所開設 ・ ・		
③地域連携に関して	○ボランティア活動 ・ ○町内会との連携 ・	○	○
④行政の対応に関して	○行政との連携 ・	○	○
⑤その他	○ ・ ○ ・		
観点	対応	評価点	課題点

B
 避難所開設・運営

C 学校再開に向けて	学校再開の概要	◎震災後の基本経営方針 ◎学校再開に向けての概要 ・		
	①教職員に関して	○3月31日までの動き ・3月14日～21日・・臨時休校中は、 ・3月22日・・ 23日・・ 24日・・ ○4月1日～	○	○
	②生徒に関して	・		
	③地域連携に関して	OPTA ・ ○町内会 ・	○	○
	④行政の対応に関して	○ ○	○	○
	⑤その他	○ライフラインの復旧 ・電気・・ 月 日 ・水道・・ 月 日 ・ガス・・ 月 日		
D 防災教育等その後の取り組み	観点	対応	評価点	課題点
	基本方針	○基本方針 ・		
	①教職員に関して	○教育課程の実施 ・ ○研修 ・	○	
	②生徒に関して	○学校生活 ○生徒会活動 ○転校生について	○	
	③地域連携に関して	○町内会・・ ○OPTAや同窓会など ・	○	

④行政の対応に関して	○ ○	○	
⑤その他	○支援の状況・・		

校長としての思い	
今後の教育（授業等）への提案	

※[防災教育等その後の取り組み]記入にあたって:内容については、防災教育の見直し・町内会との話し合い・生徒のボランティア活動・校内研修の実施・教育活動の変更・交流や支援の状況など各学校の実態に応じて記入する。写真や図版などはCDに記録してください。

題 字 仙台中中学校長会長 高 橋 泰 筆

発 行 平成24年 3月 2日

発行者 仙台中中学校長会
会 長 高 橋 泰

編集者 仙台中中学校長会
情報部